

## 幅広い視野から日本の政治社会を考える

かさはら ひでひこ  
笠原英彦

法学部政治学科 教授

一学年10名程度と少人数で、アットホームなゼミです。研究分野は日本政治史、日本政治論ですが、時代は古代から現代までと幅広く設定されています。

私たちのゼミは今年で30周年を迎えます。こちらにも齢を重ね、頭髪が随分と白くなりましたが、ゼミ生の気質や考え方もだいぶ変わったように思えます。この30年間、時代は大きく変わり、人々の暮らしや価値観も変容してきました。課題レポートをみても手書きの原稿が姿を消し、ゼミの時間中も大半の学生諸君がノートパソコンの画面を真剣にのぞき込んでいます。一方、変わらない側面もあります。それはゼミの雰囲気と研究への姿勢です。各学年10名程度と人数が比較的少ないこともあり、ゼミの雰囲気は実にアットホームです。真面目でおとなしいタイプのメンバーが多く、研究への取り組みは地道で粘り強い印象があります。

研究分野は日本政治史、日本政治論で、前近代から近現代までと守備範囲が広いので、多様な研究テーマを扱うことができます。3年次の三田祭共同研究では、主に近現代の公共政策の歴史を取り上げることが多く、テーマは例年3年生が相談して決めています。

近年は女子学生が増え、日本の社会保障政策が選ばれています。日本では少子高齢化が急速に進み、政策に必要な財源が著しく逼迫しているため、政策上多くの難問が山積しています。そこでゼミでは、これまでの政策が正しかったのか、政策判断に誤りはなかったのか、歴史的な視点からその当否が検証されます。社会保障は若い世代にも深く関係しているため、自ずとメンバー相互の議論も熱気を帯びてきます。

そして4年に進めば、ゼミの集大成である卒論に本格的に取り組むこととなります。卒論はゼミだけでなく、大学生生活、否、学生生活16年間の集大成といっても過言ではありません。卒論を書き上げることで、自信をもって社会人としてスタートラインに立つことができます。私たちのゼミではそうした考えに立って、幅広い領域から最も関心のあるテーマについて卒論を完成し、学生生活に有終の美を飾れるよう日々研鑽を積んでいます。

### 和やかさと真摯さと

すがわら たかし  
菅原 崇君 法学部政治学科4年

本研究会は、3年次の三田祭で同期生が一丸となって共著論文を1本書き上げ、その経験を生かして4年次に卒業論文を仕上げ、というカリキュラムを通して、各人の「課題発見」能力の涵養と「学問的研究」技法の習得を目指しています。

本研究会の特徴は、常日頃の穏やかな雰囲気と、研究や討論の際の学問へのひたむきさにあります。20名弱という少人数ゆえのアットホームさを1年に2度ある合宿で育みつつ、個人の興味関心に基づく多様な視点や知見を交換し合い、切磋琢磨しています。また、研究会にはOBの院生も参加し、共に学び合っており、「半学半教」を日々実践しています。



## 第二言語習得と外国語教育のメカニズムを探究

なかほまゆうこ  
中浜優子

環境情報学部 教授

20名前後のメンバーからなる本研究会では、第二言語習得と外国語教育のプロセスを量的・質的な分析を通して科学的に解明していくことに取り組んでいます。

グローバル化した社会を生き抜いていくためには、その場にあった高いコミュニケーション能力が求められます。日本でも会社内での使用言語を英語としている企業もあり、日本国内だけではなく世界に目を向けて対応している姿勢がうかがえます。また、これまで小学校で「外国語活動」として導入されていた英語も、2020年度以降、高学年を対象に教科化されることになっています。このような背景の中、本研究会では、児童や成人が第二言語(外国語)を習得するプロセス、それに関するさまざまな要因や、外国語教育などについて学んでいます。理論はもとより、研究の方法論についても勉強し、研究から得られた知見を現場に還元できるように、福澤先生の唱えた「実学」を基盤に、教育的示唆を考えます。

英語での会話も飛び交い、また日本語と英語が入り混じった会話を耳にすることも多いです。そういった現象をコードスイッチング(CS)と呼びますが、CS研究、外国語学習の動機づけや言語間の影響、英語初等教育に関する研究、発話内容・発話者・文脈の関係を探る語用論的研究、音素習得など、さまざまな研究がなされてきています。

メンバーの中には、オーストラリアからの国費留学生や、将来研究者を目指す学部・大学院修士4年一貫プログラムの学部生もいます。研究会の学生誰もが、「ことば」に興味を持っており、卒業後は高い外国語能力や発話力、文章力が発揮できる職(例えば、テレビ局のアナウンサー職、商社、出版社の仕事など)に就いているのも特徴的だといえます。皆が研究に対して真摯に向き合い、互いに切磋琢磨しながら、第二言語習得と外国語教育についてそれぞれ違った切り口から探究し、真剣に取り組んでいることをとても嬉しく感じながら指導をしています。

### 「言語を学ぶこと」を学ぶこと

わたなべ さと

渡邊紗都君 総合政策学部2年

本研究会は応用言語学の中の第二言語習得理論から多言語間コミュニケーションまで幅広い分野を扱っており、メンバーの興味分野も多岐にわたります。言語習得・言語教育の基礎的知識を構築するために文献の輪読をしたり、それぞれが興味分野に関して勉強・研究したものの発表などを行ったりします。

メンバーのほとんどは、自身の外国語学習経験に大きく動かされています。自分の経験や生活に根ざした疑問・問題意識を研究テーマの出発点としているため、一人一人が強い思い入れを持ちながら研究を進めています。そのような仲間同士で個人研究の話をするのは、細かい興味分野は異なれど、新しい発見に満ちており非常に刺激的です。

